

資産運用の高度化



東京会場

JAビル カンファレンスセンター
4階 401A
東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
TEL:03-3212-1912(代)

- 電車でのアクセス
 - ◎地下鉄千代田線・半蔵門線・三田線・東西線・丸の内線 大手町駅下車 C2b出口
 - ◎地下鉄東西線 竹橋駅下車4番出口
- お車でのアクセス
 - 首都高速道路：神田橋インターチェンジをご利用ください



名古屋会場

ミッドランドホール
名古屋市中村区名駅4-7-1
ミッドランドスクエア オフィスタワー5F
TEL:052-527-8500

- 電車でのアクセス
 - ◎JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
 - ◎ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分
- お車でのアクセス
 - 名古屋高速都心環状線「錦橋」出口より約6分 駐車場の収容台数123台
 - 中部国際空港(セントレア)から名鉄空港特急利用で28分



大阪会場

ヒルトン大阪
大阪市北区梅田1-8-8
TEL:06-6347-7111

- 電車でのアクセス
 - ◎大阪環状線・東海道本線・宝塚線 (JR) 大阪駅下車徒歩2分
 - ◎阪神電車 梅田駅下車 徒歩1分
 - ◎地下鉄四ツ橋線 西梅田駅下車 徒歩1分
- 駐車場のご利用
 - ◎24時間営業
 - ◎300台収容(高さ2.5mまで)

お申し込み方法

右記のいずれかの方法で、お申し込みいただけます。その際に、開催日またはタイトルをお伝えください(定員になり次第、締め切らせて頂きます)。また、ご案内のセミナーは基本的に機関投資家および資産運用に関連する方を対象とさせて頂いております。それ以外の方からの申し込みはお断りさせて頂く場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

※今後、セミナー案内をご希望されない方は、誠にお手数ですが、セミナー事務局まで、お電話(03-6685-0683)か、E-mail (info@fromhc.com)にて、ご連絡をお願い致します。

こちらからお申し込み下さい

- ① <http://www.fromhc.com>
プロ投資家向け 資産運用情報サイト「from HC」
- ② FAX: 03-6685-0686
- ③ TEL: 03-6685-0683

本セミナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討することを目的としております。本セミナー終了後には金融商品取引契約の勧誘を行う場合がございます。金融商品取引契約においては、投資対象の価格変動等により損失が生じる恐れがあります。また、報酬や諸経費は、契約毎に投資対象の種類等が異なるため、予め表示できません。なお、契約毎にリスク及び報酬や諸経費は異なりますので、契約締結前交付書面等をご覧下さい。

HCアセットマネジメント株式会社

一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会加入

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11 IP-Phone.050-3539-5013 Tel.03-6685-0681 Fax.03-6685-0686

11/20 (火) 東京
15:00~17:30 (開場14:30)
会場：JAビル カンファレンスセンター 4階 401A
東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
TEL: 03-3212-1912(代)

11/12 (月) 名古屋
14:00~17:00 (開場13:30)
会場：ミッドランドホール
名古屋市中村区名駅4-7-1 ミッドランドスクエア オフィスタワー 5F
TEL: 052-527-8500

11/13 (火) 大阪
14:00~17:00 (開場13:30)
会場：ヒルトン大阪
大阪市北区梅田1-8-8 TEL: 06-6347-7111

[人+産業金融=成長]
成長を支える投資の原点へ



Seminar
2018

ご挨拶に代えて

金融なぞ所詮は虚業なのだから

『森本紀行はこうみる <http://www.fromhc.com/column/>』(2017.11.2)より

金融は、それ自体は負の価値なので、単独で存立し得るはずもなく、実業における正の価値創造に結合することで成立しています。しかし、実業のほうは、外部の金融機能に依存せずに、単独で成立します。

融資等の外部金融機能を利用している企業でも、金融には負の価値しかないのならば、即ち金融は費用にすぎないのならば、経営の工夫によって、その利用を最小化するように努力すべきです。一般に、費用の最小化は経営の基本なのであります。

経営者として、資産を保有する正当性を主張したいのならば、説得力のある論拠を提示する義務を負うわけですが、その説明義務を果たし得ない場合も多いはずですから、原理的に、不要不急の資産の売却が促され、その分、外部金融機能の利用は削減され、経営は効率化されるはずで

す。いわゆるアセットライト(資産を軽くするという意味)という経営戦略においては、不要不急の資産はおろか、事業に欠くことのできない資産すら保有しないでも経営できるのでありますから、企業財務の改善余地は大きいのです。

資産を保有すれば、資産の劣化や陳腐化のリスクは、企業が負担することになりますが、オペレーティングリースを利用すれば、そのリスクはリース会社に移転し、さらに、レンタルにすれば、資産の稼働率のリスクもレンタル会社に移転させることができます。もちろん、実質的な金融費用は増加しますが、費用とリスクとの間の最適化を志向して、空運業等の幅広い分野で、リース等の利用が拡大しているわけです。

逆に、金融の立場からみても、LCCがいい例ですが、世界に多数あるLCC全体としては成長していても、過酷な競争のなかで個社の破綻確率は決して低くはないのであって、リスク管理の観点からは、融資は難しい場合が多く、リースが好まれているという現実があります。

こうして、金融界と産業界の利害が一致するところに、金融の革新が生じるのであって、金融庁は、このことを金融機関と顧客との共通価値の創造と呼んでいます。

講師：森本紀行

講演内容

フィデューシャリー・デューティーを重視すれば、資金を調達する側も、その反対側にある資産運用側も、義務として最適で最善な方法を工夫しなければならなくなります。故に、フィデューシャリー・デューティーを徹底し続けている米国では、古くからキャッシュフロー投資として不動産が投資対象にされたり、オルタナティブ投資が拡大するなど、資産運用の高度化が進んできました。

一方、フィデューシャリー・デューティーの徹底が遅れた日本では、たとえば資産配分でも、国内と国外、株式と債券を二軸とした四資産分類がいまなお使われています。しかし、新たな金融行政のもと、投資運用業者のみならず、年金基金等の投資家にも、フィデューシャリー・デューティーの徹底が求められたため、資産運用の高度化は急速に進展していくと見込まれます。

そもそも、資産を分類するのは、投資対象を選択し、選択された対象に投資資金を配分するための便宜のためです。つまり、資産分類は、リスク管理等の資産管理の基本なのでありますから、管理手法に適應した分類方法が用いられなくてはならないのです。

意図的にとるリスク、付随するリスク、非本源的リスクとリスク管理を階層化し、資産のもつキャッシュフロー創造力の評価に基づいた資産配分を行うとすれば、株式や債券といった二軸の分類は意味を失って、様々な実物資産も投資対象として検討されることになるはずで

項目

- 資産の分類
 - ◎投資対象の分類・選択・配分
 - ◎資産の分類の軸
 - ◎資産構成と資本構成
- キャッシュフロー投資
 - ◎事業キャッシュフローとインカム
 - ◎インカムの配分
- 投資対象の拡張
 - ◎伝統金融から代替的金融へ
 - ◎オブジェクトファイナンスの拡大(企業金融から事業金融へ)
 - ◎オブジェクトファイナンスと企業統治
- リスク管理
 - ◎本源的リスクと付随リスクの概念図
 - ◎ディリスク(De-Risk)の概念図
 - ◎リスク管理からリスクテイク・リターン管理へ



講師略歴

HCアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長

森本紀行

三井生命のファンドマネジャーを経て、1990年1月当時のワイアット株式会社に入社。日本初の事業として、年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を立ち上げる。2002年11月、HCアセットマネジメントを設立、全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を始める。東京大学文学部哲学科卒。